

感動！ 感激！ の記録 第28回ニューポート黒船祭

下田市長 石井 直樹

ニューポートではタウンゼント・ハリスの墓参りとして、ニューポート市立大学の表敬訪問を終え、7月14日、ニューポートに入る。

今年の黒船祭は特別だ。ウエルカムドリンクで賑やかに盛り上がりつつある会場に、川勝岡県知事が現れた。視線が知事へと注がれる。タイムリングを見計らいワラック・



歓迎夕食会での川勝知事挨拶

ながらニューポート市民の心を魅了していった。皆のあいさつが終わるとすぐ、夕食会場へ移動。県知事からワラック市長へ漆塗りの箱に富士山の絵がかかれたはずり箱や富士山の絵画等のプレゼントが贈られた。突然会場がざわめいた。私が和紙を広げ、そこから土屋典康さんの壺が現れた時だった。

ニューポート市長が歓迎の意を表す。次は私のスピーチだ。ニューポートに来たこと、そして、今回川勝知事と一緒に参加できる喜びを皆に伝え、ニューポートと下田の交流の輪をさらに深めていく決意を伝えた。川勝知事の出番だ。いきなりこの様な場に登場したにもかかわらず、臆せず堂々と楽しくジョークを混ぜ

ひと際目立つ豪華ではあるが繊細で洗練された壺が集まった人を魅了した。また、個人的にもさやかなプレゼント交換が行われたり、記念撮影をしたりなど、和やかな雰囲気がいっまでも続いた。



両市長の絆を誓い握手する両市長

7月15日 大砲の祝砲により、第28回ニューポート黒船祭式典が始まった。川勝知事のスピーチは、黒船祭の素晴らしさ、日米交流の原点、まさしく国際平和の先駆け等、

両市の姉妹都市関係の素晴らしさを力強く訴えてくださった。さらに、自分を「約束を守る男」としてアピール、約束を守りこの



川勝知事館から川勝知事と語りながら

ニューポート黒船祭に参加した、来年の下田の黒船祭には県が共催するので、ぜひ下田に来てほしいと締めくくった。私の番となった。思いを伝えるには英語で話さなくてはと思い、密かに練習したスピーチを英語で披露。今年の黒船祭が開催できなかった理由を述べ、東日本大震災直後、被災地へ向かい救援にあたってくれた米軍、自衛隊等の勇気ある行動に感謝を述べ

た。また来年の黒船祭では、感謝を表したい方々に集まっていたら、黒船祭を通じて米軍をはじめ関係者にお礼を表す場としたい。是非、皆さん来年は下田の黒船祭に来てください。と締め、大きな拍手をいただいた。その後には花輪奉獻。ワラック市長と一緒に花輪を持ちペリー提督のモニュメントの前に置き、両市の友情を確認、力強い握手を交わした。翌日、このシーンがニューポートのローカル新聞の一面に大きく掲載され、私は一躍時の人となった。

本とアメリカの知事や議員の選出方法や仕組みの違いなどについて熱く語っていた。帰り道に、知事からその内容について教えていただいた。

や好奇心、あふれんばかりの子供達の笑顔や驚きを通じ日米交流の原点を感じる。日本もアメリカも子供たちの純粋さは同じだ。この子たちが近い将来、さらに日米の友好をすすめていってほしいことを願わずにはいられない。短い時間ではあったが、正に草の根交流、言葉は通じなくても心が通じることが確信できる場であった。

夜は、ニューポート黒船祭の最大イベント「ガーラ」晩餐会に出席。来賓の一人のため、レシーピング・ラインに並び、訪れるお客様一人一人と握手をし、挨拶を交わす。多分300人くらいの方々と握手したことだろう。この中の数人は今回訪問でできた新しい友人だ。全員が入ると、大西洋に面した広大な庭に移動し、カクテルを楽しむ。引



「Karaoke」で一気に盛り上がる

7月17日 楽しい時間はあっという間に過ぎてゆく。親しい人、今回知り合えた人等、多くの友人が集まり、フェアアウエルパーティーを開催してくださった。「Karaoke」から、馴染みの曲がかかる。「上を向いて歩こう」だ。これまでも最終日に皆で合唱した思い出深い曲。バイナー会長と一緒に大きな声で、次の再会を約束し歌う。まさに心と心が一体化する感覚だ。この後の挨拶では不覚にも涙がこぼれてしまった。

が用意され、一人ずつ震災に対する思いを述べ、負けるなと励ましてくれる。かがり火に火をつけ、静かにおごそかに式は続く。「遠い昔、ペリーの縁でニューポートの人たちと知り合い、友人となった。そして今、遙か遠いアメリカより、私達のことを親身になって心配してくれている人々がここにいます。世界ではいまだに紛争は絶えず、悲しい知らせが多い。そんな中、半世紀以上に亘って築かれた下田とニューポートの友情は、正に本物であり、これからもさらに深く、深く根付いていくことを切に願う。」と語った。別れの最後の瞬間、こみ上げて来る気持ちがほとばしった。溢れる思いを英語にし、語りかけた。「ありがとう！」と。



多くの子供たちが集まる日本文化紹介ワークショップ



晩餐会出席者を迎える

空が夕焼けに染まる頃、東日本大震災の犠牲者への供養が始まった。6本のかがり火



東日本大震災への供養